学校番号	1013

令和２年度　芸術科 書道

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅱ（光村図書）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで培った技術等を発展させ、作品制作に取り組みます。
・さまざまな書体の変遷を知った上で、現在使っている文字のよさも体感し、生活の中に文字を活かせるようになることを目指します。
・授業の進め方は、毎授業での目標を明確にし、鑑賞を通して制作の意図や技術を学習する。評価方法については、各単元・毎授業の取り組み方、作品や制作カードの提出でおこないます。

２　学習の到達目標

表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる。また、さまざまな場面に対応できる書写能力を育てながら、主体的に自己を表現する能力を高める。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	さまざまな書の美に関心を持ち、多様な書法を意欲的・主体的に学んで身に付けようとしている。	自らの意図に基づいて構想し、古典の特徴を捉えて習得した技能を、自身の表現活動に生かしている。	目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な表現の技能を身に付け表している。	書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を理解し、そのよさや美しさを深く味わっている。
評価方法	・学習活動への参加状況 ・学習カード	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	篆書の学習	・篆書の基本用筆 ・篆書の古典 「泰山刻石」 「石鼓文」	○	○	○	○	a: 篆書の字形や用筆の特徴に関心をもっている。 b:各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。 c:各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d: 篆書の字形や用筆の特徴を理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
	篆刻	・自分の名前調べ(篆書) ・姓名印(八分印) ・名印(三分印)	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	○	a: 篆刻に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b: 篆書の特徴を生かして、草稿や印稿などを工夫している。 c: 篆刻の手順について理解し、姓名印・名印を刻すことができる。 d: 篆刻の意義や手順について理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
	隷書の学習	・隷書の基本用筆 ・隷書の古典 「曹全碑」 「乙瑛碑」 ・隷書の創作	○	○	○	○	a:隷書の字形や用筆の特徴に関心をもっている。 b:各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現を工夫している。 c:各古典の字形や用筆などの特徴をとらえ、書風を生かした表現をすることができる。 d:隷書の字形や用筆の特徴を理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品

二学期	漢字の書 （古典臨書のまとめ）	・書道コンクールへの出品	○	○	○	○	a:さまざまな書体について関心をもち、書風の違いについて理解しようとしている。 b:各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ、書風を生かした表現を工夫している。 c:各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ、書風を生かした表現をすることができる。 d:さまざまな古典を鑑賞し、書風の違いについて理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
	仮名の学習	・仮名の基本用筆 ・仮名の古典を学ぶ 「高野切第一種」 ・仮名の構成	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	a:仮名の書の変遷に関心をもち、意欲的に臨書や鑑賞に取り組んでいる。 b:古典の線質を理解し、筆の呼吸を生かした表現を工夫している。 c:古典の線質を理解し、筆の呼吸を生かした表現をすることができる。 d:仮名の書の変遷について理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
		・仮名の書の創作	○	○	○	○	a:仮名の書の創作に意欲的に取り組み、表現の構想から完成に至るまでの達成感を味わおうとしている。 b:意図に応じた表現を構想し、工夫している。 c:古典に基づく表現を工夫している。 d:古典に基づく表現と個性的な表現について理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品

三学期	漢字仮名交じりの書	・平仮名と漢字の調和による表現	○	○	○	○	a:漢字や仮名の古典より学んだ表現技法を、積極的に漢字仮名交じりの書の表現に生かそうとしている。 b:古典に基づく表現を工夫し、全体の構成を工夫している。 c:意図に応じた表現を工夫し、表している。 d:書表現により、自らの思いを他者に伝えることができることを理解している。	・学習活動への参加状況 ・学習カード ・提出作品
		・著作権や肖像権などについて				○	d:題材を選ぶ際の注意として理解している。	

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。